

北里大学北里研究所病院

研修医座談会

「女性医師にとって北里研究所病院とは」

内科系実習担当医師

消化器内科 医長 清水清香

現在、北里研究所病院（以下、北研）に研修医として勤務している女性医師 4 人に集まってもらって、「女性医師」をテーマにお話をしていただいた。

-今日はお集まりいただき、ありがとうございます。まず簡単に、みなさんのバックグラウンドを確認させていただきます。

「卒後 4 年の内科の後期研修医です。初期臨床研修は、出身大学とは別の大学の研修システムで、1 年目市中病院、2 年目大学病院の、いわゆる【たすき掛け】でした。その後、そのまま大学病院で内科の後期研修を 1 年やって、もう 1 年がここ北研です。この後は、大学病院の消化器内科に入局することになりました。」

「私も卒後 4 年の内科の後期研修医です。北里大学の初期臨床研修を 2 年やった後、1 年ずつ 2 年間、内科の後期研修医として、2 つの市中病院で研修することにして、2 つ目が北研。来年度は大学病院に戻って、膠原病・感染内科に入局します。」

「私は今、卒後 3 年で内科の後期研修医なんですが、最初から北研でこれからも北研です。消化器内科に決めています。」

「私は卒後 2 年です。北里大学出身で、ここで 2 年間、初期臨床研修をやって、来年度から他大学の大学病院の耳鼻咽喉科に入局の予定です。」

-自己紹介ありがとうございました。

北研は女性医師が多い

-では、いくつか質問させてください。

Q.1 北研は女性医師が多いと思いますか？

多いと思う 3 人

わからない 1 人

「最初からここで、他の病院と比べたことがないのでわかりません。」

Q.2 多いと思った方に質問です。入植する前から多いと知っていましたか？

知らなかった 3 人

「女性医師の多い少ないは外から見ていたらわからないし、（研修病院の選択基準として）別に興味もなかった。」

Q.3 女性医師が多いことのメリット、あるいはデメリットって感じますか？

「メリット、というほどではないですが、強いていえば、同性の方が話しかけやすい、聞きやすい、っていうのはある。」

「自分が唯一の女性医師、とかじゃなければ、何割以上はいたほうが、というようなことはないと思います。」

Q.4 女性医師が働きやすい職場だと思えますか？

「独身で子供がいないと、ここが他と比べてとくに働きやすいかどうかはよくわからないかも・・・」

「私は小さな子供がいるんですが、まったく支障なく研修できました。でも、研修医だからかな、と思います。ぶっちゃけ、私がいなくて誰かがすごく困る、ということはないでしょうし。」

-ここは院内の託児施設がありませんよね。

「そうですけれど、今預けているところが病児保育もしてくれてるところなので、不便は感じませんでした。」

女性医師であることが理由でイヤな思いをすることはあるが、『女の先生で良かった』って言われることもある。

Q.5 当院で仕事上、自分が女性だと強く意識させられたことはありますか？

「職員間ではないですが、やはり患者さんからはありました。外来で大声で『女

かぁ。ここには医者はいないのかぁ。』って言われた時には、カチンと来ました。そういう人もいるんだ、とわかってはいるつもりですが、腹が立ちます。あとで外来についてくれていた看護師さんが、『ひどいよね』と一緒に怒ってくれたので、救われました。」

「でも逆に、女性の患者さんが『女の先生で良かった』と言ってくれることもあるし・・・。」

「とくに体を触れる診察の場合は、女性の患者さんは、女性医師で良かった、と思うみたい。正直、私が患者の立場でもそうかな、と思います。」

「あとは、検査。患者さんからよく聞くのは、腹部エコー、マンモグラフィー、下部消化管内視鏡なんかは、同性に検査してもらう方が落ち着く、って。」

Q.6 ここからは一般的な話として、同僚として、女性医師でイヤな思いをしたことがありますか？

「15人に1人くらい、変わった人がいる。」

-10人に1人でも20人に1人でもなく？

「なんか、わかる。」

「以前勤めていた病院で、すごく厳しい女性医師が先輩にいて、トラウマになりました。今後、ずっとこういう世界で生きていくのかぁ、って。今は、女性医師

だから、じゃなくて、個人的な問題だと思えますが。」

-私の場合は、それは看護師さんでしたね。大学の実習の時の看護師さんが女子医学生に厳しい人で、これからこういう毎日なのか、と凹んだ。実際には、医師になってからはむしろ、女性医師を優遇してくれる看護師さんが多くて、まあ、理由は、電子カルテになる前だったので読める字でオーダーしてくれる、とか、なにか特別に手伝っても先輩からあの二人付き合ってるんじゃないとかって邪推されないとか、ですけど、快適に過ごしてきています。どうしても、ひとつの経験で全部がそうだと思いますが、イヤなことがあっても、それが例外かもしれない、って視点が大事ですね。

「私は女性医師とのほうがやりやすいなあ。」

「でも結局は、男性か女性か、っていうより、個人、な気がします。」

-いつも申し訳ないな、と思っはいるんですけど、私は男性医師への指導の方がどうしても厳しくなってしまう。

「それ、先生よくおっしゃってますよね。どうしてですか？」

-男女差別はいけないと思うんだけど、ひとつはたぶん、女性同士の方が言わなくても伝わる感覚みたいなものがあるんでしょうね。容量がいいと言うか、優先順位とか手の抜き方とかが、私の感覚に似ている人が多い。もうひとつは、こっ

ちのほうが大きいのかもしれないけれど、どこかに【男性の方が女性よりも仕事ができる当たり前】という古臭い感覚が私の中にある。だから、女子ができていのに男子がなぜできない、になってしまふ。なるべく、個人として見ようと努力はしているんだけど、『男でしょ！女に負けてどうする！』とか思っちゃう自分がいるんです。ダメですねえ。

以前より、女性医師の選択肢は拡大している

Q.7 今でも、女性は〇〇科というプレッシャーはありますか？

「え？ どういう意味ですか？」

-一昔前は、女性医師は耳鼻咽喉科や眼科、皮膚科などの、いわゆるマイナー科で、内科に行くのは自分の女性としての人生を犠牲にする覚悟をした人で、外科や救急、整形外科に行く人は変人級、みたいに言われましたけど・・・（笑）
実際、大学病院によっては、科によって女性医師を採用しないと公言していたところもあったんですよ。

「へえ～、そうなんですか。たしかに、外科や整形外科、救急は大変そうだな、と思いますけれど、内科は女性医師の選択肢として普通じゃないですか？ この病院しか知らないですが、私が内科を選ぶことに、特別感はまったくないです。言われたこともない。」

-ここは、内科の常勤医師だけでも、循環器内科と消化器内科に2人ずつ、今1年国内留学中でいませんが呼吸器内科に1人、神経内科に1人、女性のスタッフ医師がいますもんね。少なくとも悲壮感なく働いている。

「私は感じました。内科でも、糖尿病とかならわかるけど、消化器内科や循環器内科は、女なのに？みたいなプレッシャーがあった。同期の男性からも言われました。」

「実際に、内科に入局後、耐えられなくて他の科に移る人もいる。とくに完全主治医制の大学病院だとそういうことがありがち。」

「まあでも、そういうケースは、女性に限らないです。結局は性差というより個人差だと思います。」

Q.8 最後に、世の中の女性医師に対するイメージで、これは違う！って思うことってなにかありますか？

「具体的にはわからないんですが、よく、医者に見えないよね、って言われます。」

「え、なんで？だよね。」

-本日は、お忙しい中、ありがとうございました。なんだか、私がずいぶんしゃべっちゃいましたね。んじゃ、ご飯食べに行こっか。